

CAS	108054
物質名	酢酸ビニル
IARC Vol. (発行年)	63 (1995年)
遺伝子傷害性に関する知見	<ul style="list-style-type: none"> ・ in vitro 試験系では、細菌を用いる試験で陰性の結果であったが、哺乳動物の細胞を用いる試験で姉妹染色分体交換を誘発し、ヒトのリンパ球を用いた試験で染色体異常、小核誘発及び姉妹染色分体交換が認められた。また、ヒトのリンパ球、ラットの鼻腔の上皮細胞、プラスミド DNA を用いた試験で DNA - タンパク質間架橋形成を誘発した。 ・ in vivo 試験系では、げっ歯類を用いた試験で精子の異常及び姉妹染色分体交換を誘発した。骨髄細胞では小核の誘発を認めたが、減数分裂細胞では認められなかった。 ・ 本物質の主要な代謝物であるアセトアルデヒドは、広範な試験で遺伝子傷害性が認められている。
実験動物に関する知見	<p>評価：限定された証拠</p> <p>概要：マウス、ラットに吸入暴露させた結果、マウスでは暴露に関連した腫瘍の発生を認めなかったが、ラットでは鼻腔の腫瘍を認めた。</p>
ヒトに関する知見	<p>評価：不十分な証拠</p> <p>概要：利用可能なデータが非常に限定されている。</p>
評価結果	上記のとおり、本物質は複数の試験系で遺伝子傷害性が認められているが、実験動物に関する知見は限定されたものであった。